

◆平成30年度を迎えて



学校法人中村学園

専門学校静岡電子情報カレッジ

静岡福祉医療専門学校

理事長・校長 中村 徹

平成30年という節目の年に、入学、進級した学生諸君、おめでとうございます！！

今年は急に温かな春が来て、桜の開花宣言も例年になく早く、桜花爛漫のよき日も残り少なくなってきた。三寒四温のこの時期、体調管理には十分に留意し、有意義な学校生活を送っていただきたい。

この平成30年度、静岡福祉医療専門学校では厚生労働省視能訓練士養成施設の指定を受け「視能訓練士学科」が新設され、一期生が入学された。

そして、学生の皆さんは就学に当たり、しっかりした「目標」を立て、学校生活においては学業を通して、日々の努力から「自己実現」を図るんだ、という強い心構えを確認しなければならない時期であります。

そして、新入生は今までの学校生活では義務教育的に与えられた勉強から、これからは本学に提供される「学びの場」で、皆さん自身の意志と意欲で「自ら学ぶ」のです。学内環境では講義、演習、実習などで、試行錯誤の中からそのプロセスを学び、学外では産学連携教育プログラムでインターンシップ、ゼミナール、職場実習や卒業研究、ケアスタディなどのプログラムからも「こだわり」を持って、「自ら考え、カタチにすること」を身につけるのです。

これが社会に出てからの問題解決や壁を乗り越えることのできる君たちの「底力」となるのです。

要するに、学校生活を有意義におくり、「なりたい自分になる」ためには、この時期に自己の「キャリアデザイン」のイメージを確認し、この具現化を図るために、「こだわり」をもって、「自らが学ぶ姿勢」にかかっているのです。

本学独自の専門職中核的人材育成教育に、産業界や医療・福祉界、保育・幼児教育等の第一線の各業界人の指導も併せ受け、産学連携で「実践的職業教育プログラム」により育成されたスペシャリストを目指すのです。

1. まず、社会の動向を知って欲しい！

これで、就活で社会に自己を売り込む手段が見えてくる！！

社会的背景では、2016年2月総理官邸で開催された第16回日本経済再生本部において、成長戦略の目玉プロジェクトとして、「ロボット新戦略」が決定され、ITとロボットの融合により、生活も産業も劇的に変化する新たな時代に、日本が世界の中心で輝くための「ロボット革命元年」とすると、総理が述べている。また、第4次産業革命といわれる新たなビジネス領域創出手段としての、あらゆるものがインターネットにつながるIoT、ビックデータ・クラウド、AIの利活用や時代の流れに適応した対応が求められている。

また、2025(2015)年問題、日本の国の経済を牽引してきていただいた「団塊世代1947~1949年生まれ830万人の社会保障問題」がある。この少子高齢社会のもとで「人口減少」に「超高齢社会」、国の力といわれる「生産年齢人口の減少」。そして、人口減少による国内消費の伸び悩みなど、経済状況は混沌としている。そして、日本の総人口は2007年11月1億2800万人をピークアウトに、今年は1億2600万人、うち年金の全額給付される65歳以上の高齢者率約30%（うち75歳以上の後期高齢者15%）、生産年齢人口（「国の力」といわれる）60%。2025年には総人口1億2000万人ほど、うち高齢者35%、後期高齢者20%、生産年齢人口50%近くに減少。労働人口減少、年金給付の受給人口の急激な増大により、年金財政への圧迫が懸念されている。そこで、政府は「生産性革命」や「人づくり革命」を両輪として、すべての国民が活躍し続け、安心して暮らせる社会を目指し、「新しい経済政策パッケージ」を閣議決定した。

ゆえに、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められ、これは専門職を目指す皆さんにとって強い追い風でもあります。これらが大きなキーワードとなる。

2. 本学の教育

このような時代において本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命としている。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、IoT、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携プログラム」等の「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでお

ります。

また、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「職場実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身に着けなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を自らが認識できる教育プログラムを構築しております。

これが専門学校静岡電子情報カレッジは創立32年間、静岡福祉医療専門学校は創立20年間就職決定率100%達成と誠に喜びに堪えない快挙で、本学の誇りとするところでもあります。

3. 社会が求める人材像

資源が乏しい我が国は、人口減少・高齢社会、しかも生産年齢人口が50%となる中で、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となり、

- ① 産業構造の変化に対応できる「実践的な職業能力を有する人材」、
 - ② 将来にわたり「付加価値を創出する質の高い人材」、
 - ③ 労働力のグローバル化が進展するなか「国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材」
- などの社会基盤を支える「ヒトづくり」が急務といわれている。

4. 学校生活に確固たる目標を持って！

専門学校の教育の特徴は、その柔軟性にあり、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかが使命であり、職業教育の必要性・重要性がより一層増しております。

諸君が学ぶキャンパスは、極めて恵まれた環境にある。JR静岡駅南口から徒歩数分、通学やアフタースクール等、君たちの学校生活の範囲を広げるのに便利な立地条件だけでなく、学内ネットワークや諸処の最先端施設・設備、バリアフリーキャンパス。この中で「友情を育み」、「なりたい自分になる」という素晴らしい目標達成に向けての努力に期待します。

創立者の教育理念である高い理想に基づく「挨拶を基調とした全人教育」は、本学園教育の根幹をなすものです。学校生活においては「学習を通じて」、社会においては「仕事を通じて自己実現」を図るという教えをしっかりと身につけ、このような教育理念を掲げる本学で学ぶことに「誇り」と「これだけのことをやったんだ！」という「自信」を持って就職活動に、社会に己を売り込んでください。

5. 本学は65年の歴史と伝統を持つ実践的職業高等教育機関

本学は昭和の戦後復興の中、この静岡の地において昭和26年「手に職をつけたい」という女性の強い要望に応え、服飾分野の職業教育機関として創設者中村忠雄先生が中村技芸専門学院(静岡服飾専門学校)を設立、昭和62年廃止。本日まで実践的職業教育一筋に65年に亘り、地域に有用な人材を輩出し、長い歴史と伝統を持った職業人育成の高等教育機関です。

(1) 専門学校静岡電子情報カレッジ

専門学校静岡電子情報カレッジは創立33年、学校法人中村学園がコンピュータ社会到来による人材ニーズに応え、昭和61年にJR静岡駅南口徒歩約3分の南町ITキャンパスに静岡電子専門学校と専門学校静岡スクールオブビジネスを設立。平成3年に静岡県内初のインテリジェントキャンパスを設置し、平成4年通信衛星JC-SATⅡによる双方向性通信衛星教育システム等の最先端IT教育環境を構築。インターネット時代となり平成9年学内イントラネットとマルチメディア工房を設置した県内初のマルチメディアキャンパスに本館(南町キャンパス)を改築。あわせて、両校を統合して現在の「専門学校静岡電子情報カレッジ」が誕生。現在では「ロボット創造学科、ゲーム応用学科および映像・音響デザイン学科」を設置。創立以来32年間のICT、デザインの専門特化された知識・技術、技能の教育に他分野の付加価値を融合し、新価値を創造する先端的な教育システムを先取りし、社会の人材ニーズに応じております。

(2) 静岡福祉医療専門学校

静岡福祉医療専門学校は創立21年、超高齢化社会に対応した「質の高い福祉・医療の人材づくり」と、平成10年静岡駅南口徒歩約5分のバリアフリー森下町キャンパスを新築し、「介護福祉学科(2年制)」および専門学校静岡スクールオブビジネスに平成2年より設置し28年目を迎える医療事務系の「医療情報秘書科(2年制)」を移設して静岡福祉医療専門学校を新設。さらに、平成14年には少子高齢化社会の人材ニーズに応え、静岡県内初の修業年限3年間で介護福祉士の課程を履修したうえに、社会福祉主事、社会福祉士・福祉レクの課程を併せて履修し、介護系と社会福祉系の国家資格にレクと福祉レクの資格の取得を目指すことのできる画期的な「総合福祉学科(3年制)」を新設。また、待機児童問題解消に伴う「保育園・幼稚園、児童養護施設、認定こども園」における保育士不足という社会的な人材ニーズに応え、豊岡短期大学との教育連携により平成21年度保育士および幼稚園教諭、社会福祉主事の国家資格等の取得を目指す「子ども心理学科(3年制)」を設置。そして平成29年度

指定保育士養成施設として認可。また、身近に子どもたちに寄り添える環境として学内付帯実習施設として平成23年10月に「子育て支援キッズハウス(託児所)ひかり」を静岡駅すぐの南町キャンパスに設置。「子ども子育て支援制度」による平成29年4月静岡市の要望により、託児所から認可小規模保育園に移行し、「保育園キッズハウスひかり」となる。そして、7年越しとなる静岡県眼科医会からの要望に応え、平成27年度から厚生労働省視能訓練士養成施設立ち上げ準備に入り、平成30年度静岡県内初「視能訓練士学科(1年制)」を新設。

(3) 姉妹校第一ひかり幼稚園、併設保育園キッズハウスよいち

昭和46年静岡市葵区与一5丁目に学校法人中村学園と第一ひかり幼稚園新設され、昭和47年開園、また、待機児童対策としての静岡市の強い要望により平成30年度併設保育園「キッズハウスよいち」を新設。子ども心理学科の研修・実習先、雇用先として教育連携しながら地域の「子ども子育て」の支援に従事している。

6. 「職業実践専門課程」として文部科学大臣認定 産学連携職業教育人材育成プログラムを構築

「職業実践専門課程」とは、「職業に必要な実践的かつ専門的能力を育成する」ことを目的とした「実務に関する実践的、専門的な能力を身に付けるための教育・制度・環境が整っている」課程として、平成26年4月より文部科学大臣認定課程を受け、「職業教育水準の維持・向上」を図る職業教育人材育成プログラムである。

これにより、専門分野に関する企業、団体、業界との協力体制が確保され、関係業界と連携した実習・実技の授業がカリキュラムに組み込まれ、学校全体で業界との深い連携体制を築き、最新の実務知識を身に付けられるサポート体制や現在の雇用市場では即戦力が求められ、現場で働ける力を身に付けることができ断然就職に有利！！

- ① 企業などと連携して職業に必要な能力が身につく！
- ② 企業で実習・実技・実験などの実践的教育を受けられる！
- ③ 学校内の授業でも、企業の専門家が講師
- ④ 企業との連携により、学校関係者による評価・情報公開を実施 など

本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に応じている。

7. 地域に開かれた魅力ある専門学校づくり

本学園は、複合化(複雑化・多様化)社会に対応すべく組織改革、カリキュラムの見直し、設置学科の改組、学習環境の改善等を実施し、平成26年度からは卒業生たち等の社会人の「スキルアップ」や「学び直し」の場としての教育環境を構築。

また、本学のもう一つの教育目標である『地域に開かれた専門学校』の活動として、病院・福祉等の「ボランティア」、「レクリエーション」等の活動において、地域の方々との触れ合いを通して高い評価をいただいている。地域ボランティア活動やインターンシップ、全国的コンテストへのエントリー等を通して「より地域に開かれた魅力ある専門学校づくり」を積極的に目指します。

8. 「卒業生を囲む会」卒業生に感謝！！

電子情報は就職活動に既に入っているため4月、福祉医療は5月に開催予定。卒業生が仕事の時間を割き、また、有給休暇をつかって来校。在校生が各設置学科を代表する卒業生から「学校生活上のポイント」や「職種毎の社会の現状」、「就職活動のポイント」等の活きた指導を受け職業観、進路意識の高揚を図ることと、また、教職員も「本学の指導内容に対する現場からの助言」等を受け、その必要性に応じて学校生活、学生指導に反映。

私たちは、卒業生の貴重な情報を今後の学校生活・就職活動に活かすことで、大事な時間を割いて来校してくれた卒業生に対する御礼とさせていただきます。

9. 就職活動の面接指導：「己の人生を切り拓く就活！」

校長はじめ教頭、進路室長、事務長等を模擬面接官とした採用面接練習に臨むに当たり、事前に、次のことをしっかり自分のものにしておくこと。

- ① 己を知れ：今までの人生で、また今後、身につけることができる「自分の売り」は何なのか、自分の就きたい職種につながるように纏める。
- ② 相手を知れ：自分が就職を希望する会社、病院、施設等がどんな組織なのかをとことん調査・研究する。
- ③ 差異化を図る：私は他のエントリー者(求職者)と比較してここが違うんだ！
だから、私を採用しないと損だよ、と売り込める準備をしておく
上記の3つから自分のことばで「志望の動機」と「自己PR」を創り上げる。